

Dual Language: Japanese/English

2021年9月13日
メットライフ生命保険株式会社

「老後を変える」全国47都道府県大調査2021 2年目を迎えたコロナ禍における価値観の変化 老後への備えへの意識や行動の変化と人とのつながりへの関心

メットライフ生命保険株式会社(代表執行役 会長 社長 最高経営責任者 デイルク・オステイン)は、全国47都道府県の20歳~79歳までの男女14,100人を対象に、「老後」に関する調査を実施し、その結果をお知らせします。

本調査は、2018年以降定点調査として実施しているもので、4回目となる2021年は、「老後に対する意識の変化」「老後への備え」に対する「新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)拡大による価値観や意識の変化」などのほか、新型コロナで希薄になった「人とのつながり」に焦点をあてて、年代間などでの傾向の違いと、47都道府県別に結果をまとめました。

当社は、誰もが明るく豊かな老後を思い描くことができるよう「老後を変える」のテーマのもと、さまざまな取り組みを行っており、本調査はその一環として実施したものです。人生100年時代を迎えるといわれる日本において、多様化し急速に変化するお客さまのニーズを深く理解して商品やサービスに生かしながら、よりたしかな未来に向けて継続的な責任を果たすことを目指しています。

本調査の詳細につきましては、「老後を変える」のホームページをご覧ください。

<https://www.metlife.co.jp/changerougo/about/>

<全国版>

1. 老後に対する意識とその変化

- 14,100人のうち、8割以上(83.3%)が自らの老後に不安を感じている。
- 老後に対する不安要因は、全体ではお金や健康、認知症がトップ3に入った。60~70代では「健康」「認知症」「自身の介護」「お金」の順となった。
- 新型コロナにより、老後不安が増えたと感じた方は44.0%となり、前年比で4.7%減少した。
- 新型コロナにより、老後に対する考え方がどのように変化したかという質問に対して、全体では「健康への気遣い」と「貯蓄意識の高まり」に次いで「生活費の節約」の順で、20~30代では「貯蓄意識の高まり」の割合が5割近くと高く、次いで「健康への気遣い」「資産運用意向の高まり」となった。
- 人生100年時代において、100歳まで生きるとしたら「将来実現したい夢」があると答えたのは全体の26.7%となった。そして、これらの夢の実現に向けた必要になることでは「経済的な準備」(64.4%)「健康増進」(60.0%)となった。

2. 老後の金融資産と資産運用

- 老後の備えとなる金融資産を「計画的に貯めている」「計画的ではないが少しずつ貯めている」と回答した方は全体の62.3%。2019年(56.4%)、2020年(61.4%)と年々割合が高くなる傾向が見られた。
- 現在の保有金融資産額は、全体平均で1,183.5万円。前年比で全体(前年比+25.8万円)では増加したが20代(前年比-91.9万円)と50代(前年比-24.5万円)で減少した。
- 「老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額」は、全体平均で2,852.9万円(前年比-154.5万円)となり、調査が始まった2018年以来、最も低い。特に20代は前年比-311万円低い結果となった。

- 資産の運用状況を見ると、全体の35.1%が現在、自身で資産運用をしており、2018年に調査を始めて以来、20代では初めて3割を超えた。
- 今後、資産運用意向がある方は全体の58.5%(前年56.7%)で、20~30代の7割以上が資産運用の意向がある。また、60~70代を除くすべての世代で資産運用の意向があると回答した方は、調査が始まった2018年に対して10歳以上の増加を示している(20代+23.9歳、30代+14.9歳、40代+13.5歳、50代+10.4歳)。
- 新型コロナにより、資産運用意向が高まったと回答した方は、24.0%(前年20.1%)で、20~30代は7歳程度増加している。

3. 生活充実度と生活意識から見る「人とのつながり」

- 「今のご自身の生活充実度は何点(自己採点)ですか」と聞いたところ、全体の平均が61.5点。前年(62.3点)から若干下がったが大きな変化はない。また、「現在資産運用をしている」「老後も友人がいる」「将来実現したい夢がある」と回答した人は、それぞれ平均を超える65点以上の点数をつけており、将来に向けた準備や人とのつながりと生活充実度との相関関係が見られた。
- 新型コロナによる「人とのつながり」に対する意識や行動の変化については、「友人との交流が減った」(66.6%)が最も多く、「同居している家族との会話が増えた」(48.5%)と続く。友人や家族とのつながりについての変化に次いで、「地域の子どもたちへのサポート」「地域の交通安全や治安を守るサポート」「地域のお年寄りのサポート」などへの関心が高い。
- 現在の健康や資産形成、人とのつながりについての生活意識では、「自分の生きがいを持っている」(40.0%)、「健康・医療に関する相談先がある」(39.7%)に次いで「友人などとのコミュニケーションやつながりを大事にしている」(39.5%)が高い。

<47都道府県版>

調査の主要項目についてスコアの高かった都道府県は次の通りであった。

- 「老後に対する不安度」が高かったのは、福島県(89.4%)、岩手県(88.9%)、新潟県(88.5%)、静岡県(88.1%)、富山県(88.1%)。
- 「新型コロナにより老後不安が増えた」と感じた方が多かったのは、青森県(50.5%)、宮崎県(50.3%)、宮城県(48.4%)、茨城県(47.6%)、東京都(47.2%)。
- 「資産運用実施率」が高いのは、兵庫県(44.2%)、埼玉県(41.7%)、神奈川県(41.2%)、三重県(41.2%)、富山県(40.5%)。
- 「資産運用意向」が高いのは、沖縄県(67.5%)、滋賀県(66.0%)、東京都(64.5%)、島根県(64.3%)、栃木県(64.0%)。
- 「将来の夢がある人」が高かったのは、東京都(31.1%)、滋賀県(30.6%)、兵庫県(30.2%)、沖縄県(29.7%)、京都府(29.6%)。

以上

<添付>

「老後を変える」全国 47 都道府県大調査 2021

<目次>

調査結果

<全国版>

1. 老後に対する意識とその変化

(1) 老後に対する不安度-----	P.4
(2) 老後に対する不安要因-----	P.4
(3) 新型コロナによる老後不安の変化-----	P.5
(4) 新型コロナによる老後への考え方や価値観の変化-----	P.5
(5) 将来実現したい夢などについて-----	P.6

2. 老後の金融資産と資産運用

(1) 老後の備え-----	P.7
(2) 老後への資金準備意識とその変化の傾向-----	P.7
(3) 資産運用について-----	P.8
(4) 新型コロナによる資産運用意向の変化-----	P.8
(5) 老後のために備えている金融資産-----	P.9
(6) 金融機関、保険会社に求めること-----	P.9

3. 生活充実度と生活意識から見る「人とのつながり」

(1) 生活の充実度-----	P.10
(2) 新型コロナによる人とのつながりの変化-----	P.10
(3) 現在の生活意識について-----	P.10

<47都道府県版>----- P.11,12

調査概要

1. 調査対象：全国 47 都道府県に在住（調査実査時点）の 20 歳～79 歳の男女を、各都道府県で性・年代別に各 30 人ずつ（60 歳～79 歳は合算）合計 14,100 人
2. 調査方法：インターネット調査
3. 調査数： 14,100 人
4. 調査時期： 2021 年 6 月 18 日（金）～6 月 21 日（月）

本調査の詳細につきましては、「老後を変える」のホームページをご覧ください。
<https://www.metlife.co.jp/changerougo/about/>

※スコアは集計時に各都道府県の性年代の人口動態の構成比に合わせて、ウェイトバック集計を行っています。
 ※集計データの構成比(%)は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%にならない場合があります。

※提示しているスコアについては、四捨五入の関係上、足し引きした場合に数値が増減する場合があります。

<全国版>

1. 老後に対する意識とその変化

(1) 老後に対する不安度

「自らの老後について不安を感じるか」と質問したところ、全体（14,100人）の8割以上（83.3%）が「不安がある・やや不安がある」と回答（表1）。年代別では、40代が最も高い（89.9%）傾向が見られ、この傾向は2018年や2019年、2020年でも同様であった。

（表1）自らの老後について不安を感じるか

	「老後への不安」ある+ややある				
	2018年	2019年	2020年	2021年	(前年比)
全体 (n=14100)	81.7%	81.5%	83.5%	83.3%	-0.2pt
20代 (n=1859)	83.1%	84.1%	84.1%	83.0%	-1.1pt
30代 (n=2344)	86.2%	86.8%	85.1%	88.1%	3.0pt
40代 (n=2762)	87.6%	87.1%	89.7%	89.9%	0.2pt
50代 (n=2319)	85.9%	86.9%	87.5%	86.9%	-0.7pt
60~70代 (n=4816)	73.6%	72.1%	76.9%	75.5%	-1.5pt

(2) 老後に対する不安要因

老後に対する不安要因は、お金や健康に次いで認知症の順となった（表2）。

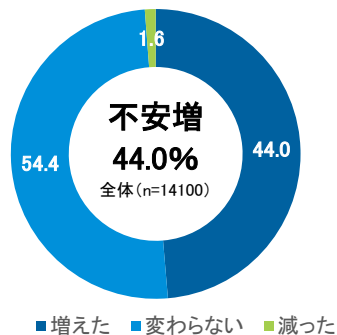
（表2）老後に対する不安要因（複数回答）

	全体 (n=14100)		20代 (n=1859)		30代 (n=2344)		40代 (n=2762)		50代 (n=2319)		60~70代 (n=4816)	
	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年	2021年
1位	お金 (60.0%)	お金 (58.7%)	お金	お金	お金	お金	お金	お金	お金	お金	健康	健康
2位	健康 (55.5%)	健康 (54.6%)	認知症	認知症	健康	健康	健康	健康	健康	健康	認知症	認知症
3位	認知症 (52.1%)	認知症 (52.1%)	健康	両親の介護	認知症	認知症	認知症	認知症	認知症	認知症	自身の介護	自身の介護
4位	自身の介護 (47.1%)	自身の介護 (47.3%)	両親の介護	健康	両親の介護	両親の介護	自身の介護	自身の介護	自身の介護	自身の介護	お金	お金
5位	両親の介護 (33.6%)	配偶者の介護 (33.0%)	自身の介護	自身の介護	自身の介護	自身の介護	両親の介護	両親の介護	両親の介護	両親の介護	配偶者の介護	配偶者の介護

(3) 新型コロナによる老後不安の変化

「新型コロナによる影響で、老後不安に変化があったか」を聞くと、「不安が増えた」(44.0%)と回答(表3-1)。

(表3) 新型コロナの影響による老後の不安の変化



(4) 新型コロナによる老後への考え方や価値観の変化

新型コロナにより、老後に対する考え方がどのように変化したかという質問に対して、全体では「健康への気遣い」と「貯蓄意識の高まり」に次いで「生活費の節約」の順で、20～30代では「貯蓄意識の高まり」の割合が5割近くと高く、次いで「健康への気遣い」「資産運用意向の高まり」となった(表4)。

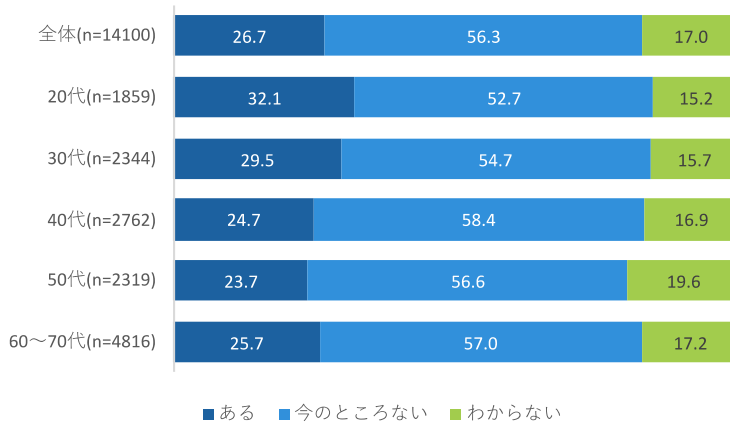
(表4) 新型コロナの影響で、老後に対する考え方や価値観の変化の内容 (複数回答)

	全体 (n=14100)		20代 (n=1859)		30代 (n=2344)		40代 (n=2762)		50代 (n=2319)		60-70代 (n=4816)	
1位	健康への気遣い	34.3%	貯蓄意識の高まり	46.6%	貯蓄意識の高まり	47.5%	貯蓄意識の高まり	41.0%	貯蓄意識の高まり	33.2%	健康への気遣い	44.2%
2位	貯蓄意識の高まり	34.3%	健康への気遣い	24.4%	健康への気遣い	27.7%	健康への気遣い	30.6%	健康への気遣い	32.8%	生活費の節約	25.1%
3位	生活費の節約	23.7%	資産運用意向の高まり	22.5%	資産運用意向の高まり	23.4%	生活費の節約	24.1%	生活費の節約	25.1%	貯蓄意識の高まり	19.7%
4位	資産運用意向の高まり	15.1%	生活費の節約	19.2%	生活費の節約	22.7%	資産運用意向の高まり	17.9%	自宅での趣味を持つ	14.3%	自宅での趣味を持つ	15.9%
5位	自宅での趣味を持つ	14.9%	自宅での趣味を持つ	17.6%	自宅での趣味を持つ	14.7%	自宅での趣味を持つ	12.1%	資産運用意向の高まり	12.6%	老後の過ごし方をイメージ	12.6%

貯蓄意識の高まり: 老後に備えて、貯蓄しようと思った
 健康への気遣い: 老後に備えて、健康に気を使うようになった
 生活費の節約: 老後に備えて、生活費を節約している

(5) 将来実現したい夢などについて

人生 100 年時代において、100 歳まで生きるとしたら「将来実現したい夢がある」と答えたのは全体の 26.7%となった。そして、これらの目標の実現に向けて必要になることでは「経済的な準備」(64.4%)「健康増進」(60.0%)となった(表 5)。

(表 5) 将来実現したい夢の有無と実現に向けて必要なこと


	経済的な準備	健康増進	自分のやる気 を高めること	仲間がいること・ 仲間をつくること	専門的な知識を 得ること	家族の理解を 得ること
全体 (n=3760)	64.4%	60.0%	49.6%	34.1%	32.4%	28.8%
20代 (n=596)	63.8%	48.1%	49.0%	41.0%	39.4%	32.8%
30代 (n=692)	69.9%	54.5%	43.6%	38.5%	36.9%	30.9%
40代 (n=682)	62.8%	57.1%	47.4%	30.5%	34.2%	30.6%
50代 (n=550)	69.0%	64.0%	53.8%	31.5%	31.5%	26.4%
60~70代 (n=1240)	60.3%	68.7%	52.4%	31.4%	26.0%	25.8%

2. 老後の金融資産と資産運用

(1) 老後の備え

老後の備えとなる金融資産を「計画的に貯めている」「計画的ではないが、少しずつ貯めている」と回答した方は全体の62.3%。経年で見ると、2019年(56.4%)、2020年(61.4%)と割合が高くなっている。年代別に見ると、20代で2019年、2020年と比べて高い傾向があるほか、特に60～70代は2019年比で8.8pt高くなり、老後への備えの行動化が見られた(表6)。

(表6) 老後の備え

	「計画的に貯めている」+ 「計画的ではないが、少しずつ貯めている」				
	2019年	2020年	2021年	(2019年比)	(2020年比)
全体 (n=14100)	56.4%	61.4%	62.3%	5.9pt	0.9pt
20代 (n=1859)	48.8%	54.1%	56.7%	7.9pt	2.6pt
30代 (n=2344)	58.6%	63.3%	62.7%	4.1pt	-0.6pt
40代 (n=2762)	56.1%	58.3%	58.5%	2.4pt	0.2pt
50代 (n=2319)	56.7%	62.0%	61.2%	4.5pt	-0.8pt
60～70代 (n=4816)	58.3%	64.8%	67.1%	8.8pt	2.3pt

※不動産・土地等の資産は除き、金融資産のみ
 ※金融資産には生命保険・共済の保険商品も含めます。

(2) 老後への資金準備意識とその変化の傾向

2020年の調査結果と変わらず、20～70代までのすべての年代において、「老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額」と、「現在の保有金融資産額」の差があり、年代や保有している金融資産額に関わらず、金融資産が不足しているという意識傾向があった(表7-1は平均値、表7-2は中央値)。2021年の調査結果では、「現在の保有金融資産額」の平均額は増え、「老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額」は減少している。特に20代では2020年と比較して300万円以上の減少となっており、60～70代も前年比で220万円以上低く想定されており、全体平均では2,852.9万円(前年比-154.5万円)という結果であった(表7-3平均値)。

(表7-1)
 現在の保有金融資産額と、
 老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額
 ギャップ/平均値

現在の保有金融資産額 (万円)	老後の備えに必要な金融資産と 自らが想定している金額 (万円)	差額 (万円)
全体 (n=14011)	2,853	-1,669
20代 (n=1853)	2,362	-2,068
30代 (n=2339)	2,822	-2,190
40代 (n=2748)	2,950	-2,052
50代 (n=2310)	2,953	-1,804
60～70代 (n=4761)	2,955	-973

※金融資産のみで不動産、土地は除く
 ※異常値は外して集計

(表7-2)
 現在の保有金融資産額と、
 老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額
 ギャップ/中央値

現在の保有金融資産額 (万円)	老後の備えに必要な金融資産と 自らが想定している金額 (万円)	差額 (万円)
全体 (n=14011)	2,000	-1,700
20代 (n=1853)	2,000	-1,900
30代 (n=2339)	2,000	-1,750
40代 (n=2748)	2,000	-1,750
50代 (n=2310)	2,000	-1,500
60～70代 (n=4761)	2,000	-1,000

※金融資産のみで不動産、土地は除く
 ※異常値は外して集計

**(表 7-3) 現在の保有金融資産額と、老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額、ギャップ/平均値
(2021年対2020年比)**

	現在の保有金融資産額 (万円)				老後の備えに必要な金融資産と 自らが想定している金額 (万円)				差額 (万円)	
	2020年ベース 2021年ベース	2020年	2021年	2021年対 2020年比	2020年ベース 2021年ベース	2020年	2021年	2021年対 2020年比	2020年	2021年
全体	n=14001 n=14011	1,158	1,184	+26	n=13830 n=13867	3,007	2,853	-155	-1,850	-1,669
20代	n=1848 n=1853	385	294	-92	n=1824 n=1833	2,673	2,362	-311	-2,287	-2,068
30代	n=2338 n=2339	567	632	+65	n=2313 n=2323	2,883	2,822	-61	-2,316	-2,190
40代	n=2751 n=2748	855	899	+43	n=2703 n=2714	3,015	2,950	-65	-2,160	-2,052
50代	n=2314 n=2310	1,174	1,149	-25	n=2273 n=2276	3,028	2,953	-75	-1,855	-1,804
60~70代	n=4750 n=4761	1,916	1,982	+66	n=4718 n=4721	3,184	2,955	-229	-1,267	-973

※金融資産のみで不動産、土地は除く
※異常値は外して集計

(3) 資産運用について

「資産運用をしている」と回答した方は、全体の35.1%で、2020年(32.6%)、2019年(30.5%)と、実施していると回答した方の割合が経年で増えている傾向が見られた。年代別では、20代でも3割以上が資産運用をしており、全年代で3割以上が資産運用をしているという結果になった(表 8-1)。

また、「今後の資産運用意向がある」「したい」「ややしたい」と回答した方は、全体の58.5%で、年代別では20~30代が約7割と高くなった(表 8-2)。特に、資産運用について「したい」、「ややしたい」と答えた20代は72.9%となり、調査を始めた2018年と比較して23.9ポイントも増加している。

(表 8-1) 資産運用実施率

資産運用実施率	資産運用実施率				
	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比差
全体 (n=14100)	28.1%	30.5%	32.6%	35.1%	2.5pt
20代 (n=1859)	16.5%	18.5%	22.0%	30.3%	8.3pt
30代 (n=2344)	26.4%	28.2%	31.8%	35.4%	3.6pt
40代 (n=2762)	27.1%	31.3%	30.9%	33.6%	2.7pt
50代 (n=2319)	28.0%	30.6%	31.0%	32.3%	1.3pt
60~70代 (n=4816)	34.0%	35.7%	38.9%	39.0%	0.1pt

(表 8-2) 今後の資産運用意向

資産運用意向	資産運用意向				
	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比差
全体 (n=14100)	47.5%	51.0%	56.7%	58.5%	1.8pt
20代 (n=1859)	49.0%	59.7%	67.2%	72.9%	5.7pt
30代 (n=2344)	57.8%	63.1%	69.2%	72.7%	3.5pt
40代 (n=2762)	51.9%	56.7%	60.9%	65.4%	4.5pt
50代 (n=2319)	45.4%	48.9%	54.7%	55.8%	1.1pt
60~70代 (n=4816)	40.4%	39.6%	45.2%	43.5%	-1.7pt

(4) 新型コロナによる資産運用意向の変化

「新型コロナの影響で、資産運用意向が高まった」と回答した方、全体の24.0%となった。年代別では20~30代は前年より7ポイント程度増加した(表 9)。

**(表 9) 新型コロナの影響で
資産運用意向が高まった**

資産運用したい	2020年	2021年	前年比差
全体 (n=14100)	20.1%	24.0%	3.9pt
20代 (n=1859)	31.6%	38.5%	6.9pt
30代 (n=2344)	30.4%	37.6%	7.2pt
40代 (n=2762)	22.4%	28.0%	5.6pt
50代 (n=2319)	17.1%	19.0%	1.9pt
60~70代 (n=4816)	10.8%	11.9%	1.1pt

(5) 老後のために備えている金融資産

老後に備えている金融資産の種類は(表 10)、「預貯金」が 71.8%と最も高く、次いで「株式」(28.9%)、「投資信託・ETF」(26.4%)、「貯蓄性のある保険」(24.3%)、「個人型確定拠出年金」(15.3%)の順となった(表 10)。

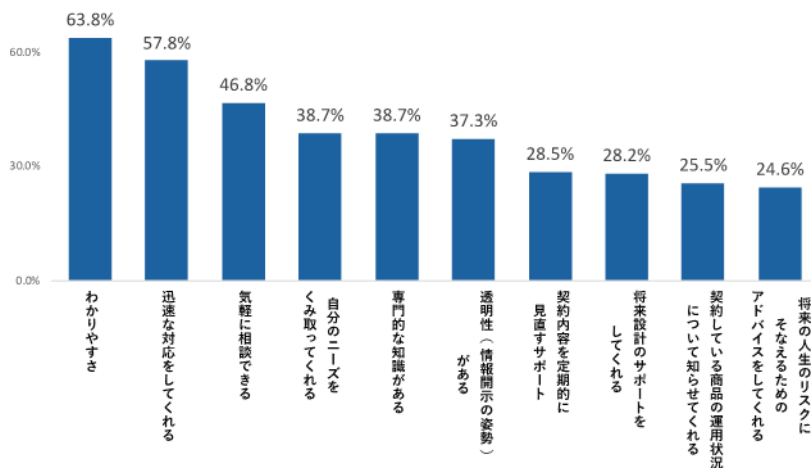
(表 10) 老後の備えに利用している金融資産(複数回答)

	老後の備えをしている人 (n=8790)	20代 (n=1054)	30代 (n=1470)	40代 (n=1617)	50代 (n=1419)	60-70代 (n=3230)
1位	預貯金 71.8%	預貯金 50.5%	預貯金 68.6%	預貯金 70.3%	預貯金 74.9%	預貯金 79.7%
2位	株式 28.9%	投資信託・ETF 28.1%	株式 27.1%	貯蓄性のある保険 26.0%	株式 26.3%	株式 35.0%
3位	投資信託・ETF 26.4%	株式 22.5%	貯蓄性のある保険 26.7%	株式 24.6%	貯蓄性のある保険 25.2%	投資信託・ETF 28.7%
4位	貯蓄性のある保険 24.3%	個人型確定拠出年金 17.3%	投資信託・ETF 26.6%	投資信託・ETF 24.5%	投資信託・ETF 22.1%	貯蓄性のある保険 24.2%
5位	個人型確定拠出年金 15.3%	貯蓄性のある保険 17.2%	個人型確定拠出年金 22.0%	個人型確定拠出年金 21.8%	個人型確定拠出年金 17.4%	外貨預金 8.4%

(6) 金融機関、保険会社に求めること

「老後の備えについて、金融機関(銀行、証券、保険)にどのようなことを求めるか」を聞いたところ、「わかりやすさ」が最も高く 63.8%、次いで「迅速な対応をしてくれる」「気軽に相談できる」が上位となった(表 11)。

(表 11) 金融機関に求めること(複数回答) 上位 10 項目



老後の備えとして必要な金額やその備え方は経済環境や個々人の状況によって異なるが、保有金融資産額や資産運用実施率が増加しており、老後に備える行動を起こした方が増えている傾向が見られた。また、金融機関などの専門的な知識に基づくアドバイスを受けるなど、現状や自らに合った備え方を知ることを望んでいる方が一定数いると考えられる。

3. 生活充実度と生活意識から見る「人とのつながり」

(1) 生活充実度

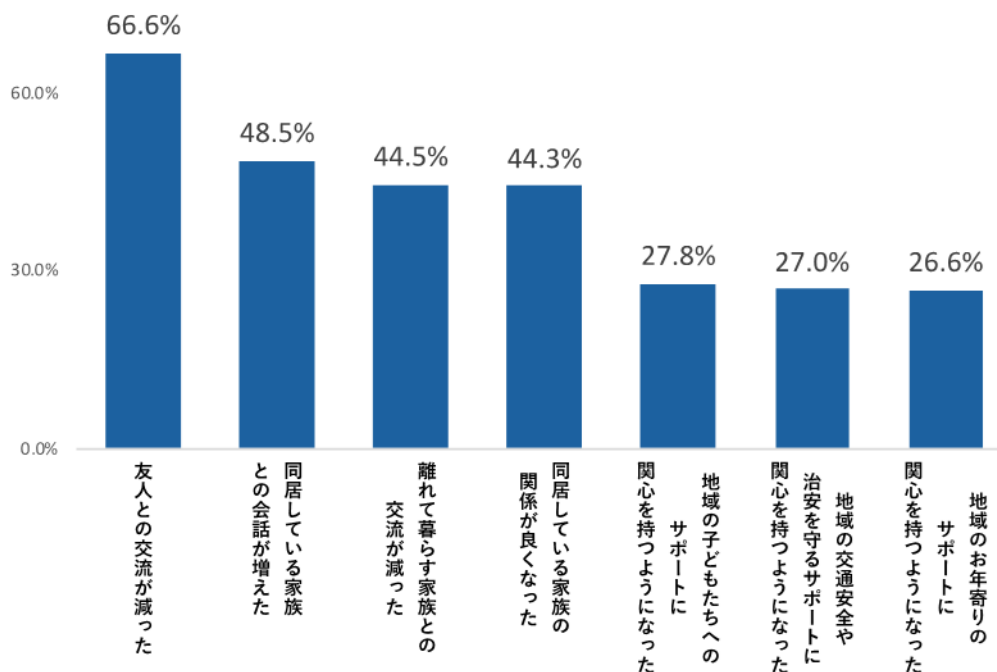
「今のご自身の生活充実度は何点(自己採点)ですか」と聞いたところ、全体の平均が 61.5 点。前年(62.3 点)から若干下がったが大きな変化はない。また、「現在資産運用をしている」、「老後も友人がいる」、「将来実現したい夢がある」と回答した人は、それぞれ平均を超える 65 点以上の点数となり、生活充実度の相関関係が見られた。

	全体平均	現在資産運用をしている	老後も友人がいる	将来実現したい夢がある
生活充実度	61.5	65.6	66.9	66.2

(2) 新型コロナによる人とのつながりの変化

新型コロナによる「人とのつながり」に対する意識や行動の変化については、「友人との交流が減った」(66.6%)が最も多く、「同居している家族との会話が増えた」(48.5%)と続く。友人や家族とのつながりについての変化に次いで、「地域の子どもたちへのサポート」「地域の交通安全や治安を守るサポート」「地域のお年寄りのサポート」などへの関心が高い(表 12)。

(表 12) 新型コロナウイルスが社会問題化してから、人とのつながりに対する意識や行動変化 上位 7 項目



(3) 現在の生活意識について

現在の健康や資産形成、人とのつながりについての生活意識では、「自分の生きがいを持っている」(40.0%)、「健康・医療に関する相談先がある」(39.7%)に次いで「友人などとのコミュニティやつながりを大事にしている」(39.5%)が高い(表 13)。

(表 13) 健康や資産形成、人とのつながりなどについて、あてはまるもの 上位 6 項目

	自分の生きがいを持っている	健康・医療に関する相談先(かかりつけ医など)がある	友人などとのコミュニティやつながりを大事にしている	健康や病気の予防のために定期的に運動やトレーニングを行っている	健康や病気の予防のために情報を収集している	資産形成や運用に取り組んでいる
全体 (n=14100)	40.0%	39.7%	39.5%	39.2%	38.0%	30.7%
20代 (n=1859)	41.4%	27.0%	48.3%	39.0%	34.2%	29.5%
30代 (n=2344)	37.9%	24.4%	38.6%	34.9%	33.0%	32.2%
40代 (n=2762)	34.4%	29.6%	31.7%	33.6%	31.7%	29.3%
50代 (n=2319)	35.4%	39.7%	32.4%	34.6%	35.9%	28.4%
60~70代 (n=4816)	45.9%	57.9%	44.4%	47.0%	46.4%	32.5%

<47都道府県版>

全国版で取り上げた主要項目に関し 47 都道府県のうちスコアの高かった都道府県 5 つを取り上げると、以下(表 14)の結果となった(全 47 都道府県の結果は次ページ)。

- 「老後に対する不安度」が高かったのは、福島県(89.4%)、岩手県(88.9%)、新潟県(88.5%)、静岡県(88.1%)、富山県(88.1%)。
- 「新型コロナにより老後不安が増えた」と感じた方が多かったのは、青森県(50.5%)、宮崎県(50.3%)、宮城県(48.4%)、茨城県(47.6%)、東京都(47.2%)。
- 「資産運用実施率」が高いのは、兵庫県(44.2%)、埼玉県(41.7%)、神奈川県(41.2%)、三重県(41.2%)、富山県(40.5%)。
- 「資産運用意向」が高いのは、沖縄県(67.5%)、滋賀県(66.0%)、東京都(64.5%)、島根県(64.3%)、栃木県(64.0%)。
- 「将来の夢がある人」が高かったのは、東京都(31.1%)、滋賀県(30.6%)、兵庫県(30.2%)、沖縄県(29.7%)、京都府(29.6%)。

(表 14) 項目別 47 都道府県の傾向

	老後不安がある (%)		新型コロナで老後不安が増大 (%)		老後資金を貯めている (%)		差額順	現在の保有金融資産額 (万円)	老後の備え必要資産額 (万円)	差額 (万円)
	全体	83.3	全体	44.0	全体	62.3				
1	福島県	89.4	青森県	50.5	神奈川県	69.4	石川県	1,530	2,590	-1,059
2	岩手県	88.9	宮崎県	50.3	滋賀県	67.3	秋田県	915	2,027	-1,112
3	新潟県	88.5	宮城県	48.4	東京都	66.6	和歌山県	1,658	2,796	-1,138
4	静岡県	88.1	茨城県	47.6	三重県	66.3	宮崎県	778	2,088	-1,310
5	富山県	88.1	東京都	47.2	山口県	66.0	山口県	1,187	2,542	-1,355

	資産運用実施率 (%)		資産運用意向 (%)		将来の夢がある人 (%)	
	全体	35.1	全体	58.5	全体	26.7
1	兵庫県	44.2	沖縄県	67.5	東京都	31.1
2	埼玉県	41.7	滋賀県	66.0	滋賀県	30.6
3	神奈川県	41.2	東京都	64.5	兵庫県	30.2
4	三重県	41.2	島根県	64.3	沖縄県	29.7
5	富山県	40.5	栃木県	64.0	京都府	29.6

(表 15) 調査主要項目に対する 47 都道府県の結果

全体 (n=14,100)		老後不安がある (%)	新型コロナで老後不安が増大 (%)	老後資金を貯めている (%)	現在の保有金融資産額 (万円)	老後に必要な金額 (万円)	差額 (万円)	資産運用実施率 (%)	資産運用意向 (%)	将来の夢がある人 (%)
14,100	全体	83.3	44.0	62.3	1,184	2,853	-1,669	35.1	58.5	26.7
606	北海道	78.6	42.5	58.6	969	2,594	-1,625	29.7	52.3	25.2
145	青森県	86.0	50.5	54.8	806	2,721	-1,915	25.9	55.9	23.1
140	岩手県	88.9	38.6	57.7	1,011	2,773	-1,762	28.2	50.4	29.0
255	宮城県	85.2	48.4	53.8	905	2,470	-1,565	30.3	52.5	23.5
112	秋田県	85.4	39.3	53.5	915	2,027	-1,112	29.7	52.5	23.4
121	山形県	85.8	46.6	57.4	878	2,524	-1,646	28.9	55.7	26.2
209	福島県	89.4	46.2	55.6	955	2,423	-1,468	27.7	53.4	23.5
325	茨城県	86.2	47.6	61.5	1,070	2,618	-1,549	31.7	58.0	26.5
221	栃木県	80.3	46.9	60.3	788	2,640	-1,852	33.1	64.0	25.8
217	群馬県	86.4	46.8	59.2	997	2,579	-1,582	28.3	52.9	23.5
829	埼玉県	81.5	42.9	65.6	1,276	2,806	-1,529	41.7	62.9	24.7
703	千葉県	77.9	41.6	53.7	1,058	2,502	-1,444	34.0	56.3	29.0
1,550	東京都	83.8	47.2	66.6	1,438	3,123	-1,685	39.2	64.5	31.1
1,036	神奈川県	83.8	42.1	69.4	1,229	3,261	-2,032	41.2	62.4	27.9
252	新潟県	88.5	43.6	59.2	1,096	2,556	-1,460	30.8	54.5	27.9
117	富山県	88.1	41.8	57.3	839	2,515	-1,676	40.5	62.0	22.1
125	石川県	84.4	43.1	61.1	1,530	2,590	-1,059	37.5	57.3	27.7
84	福井県	85.1	45.3	63.1	1,145	2,781	-1,636	34.1	59.6	22.8
91	山梨県	86.8	45.6	60.6	1,175	3,141	-1,966	35.5	54.6	29.3
225	長野県	87.4	44.3	59.9	802	3,037	-2,235	30.7	56.9	25.2
223	岐阜県	85.1	44.3	65.1	1,058	2,869	-1,811	33.3	53.5	27.9
409	静岡県	88.1	42.1	63.8	933	3,108	-2,176	34.9	54.3	21.0
832	愛知県	84.6	43.1	65.4	1,344	2,944	-1,601	34.8	62.6	23.5
199	三重県	78.6	46.1	66.3	1,339	3,265	-1,926	41.2	56.5	24.0
154	滋賀県	82.3	42.5	67.3	1,262	2,859	-1,597	39.6	66.0	30.6
287	京都府	83.8	46.1	65.0	1,527	3,047	-1,520	33.7	59.4	29.6
992	大阪府	83.3	45.2	65.0	1,373	2,839	-1,467	35.0	54.7	26.4
611	兵庫県	82.0	43.5	63.7	1,372	3,188	-1,816	44.2	63.3	30.2
151	奈良県	80.4	35.1	58.3	1,357	3,247	-1,889	32.1	55.9	23.9
106	和歌山県	77.0	38.7	64.7	1,658	2,796	-1,138	34.9	60.2	25.3
61	鳥取県	82.4	37.0	61.7	1,120	2,795	-1,674	30.7	53.8	27.7
73	島根県	87.5	44.0	65.6	1,512	2,892	-1,380	37.1	64.3	26.2
206	岡山県	86.3	42.6	59.0	1,131	2,807	-1,676	35.2	58.0	26.4
310	広島県	80.3	41.5	60.2	1,036	3,213	-2,176	34.4	52.2	27.7
153	山口県	85.6	42.9	66.0	1,187	2,542	-1,355	35.7	53.1	24.3
82	徳島県	81.9	44.4	58.8	1,057	2,527	-1,471	32.9	53.8	25.9
105	香川県	85.2	42.5	65.9	1,193	2,911	-1,718	35.4	63.6	25.9
149	愛媛県	84.8	37.4	57.0	951	2,586	-1,635	29.5	50.8	23.9
78	高知県	84.0	41.2	62.4	1,084	2,683	-1,599	34.6	62.5	27.0
559	福岡県	80.3	42.7	59.8	1,251	2,879	-1,629	31.9	57.9	26.9
89	佐賀県	84.0	42.7	55.3	1,126	2,679	-1,554	23.8	53.1	24.0
148	長崎県	84.2	43.5	62.7	1,177	2,563	-1,386	29.6	56.0	21.7
191	熊本県	82.1	44.1	55.8	920	2,587	-1,667	30.6	55.7	25.7
126	大分県	83.1	45.1	51.1	863	2,372	-1,509	25.1	51.1	25.7
118	宮崎県	83.7	50.3	57.6	778	2,088	-1,310	24.5	54.2	25.7
174	鹿児島県	80.3	46.1	60.2	930	2,566	-1,636	29.5	59.1	27.8
151	沖縄県	79.2	46.6	61.9	886	2,666	-1,780	33.0	67.5	29.7

「老後を変える」取り組み

当社は「老後を変える」というテーマのもと、健康で豊かな老後を過ごせること、また誰もが明るく豊かな老後を思い描くことができることを目指しています。「老後を変える 全国47都道府県大調査」の実施、産・官・学・民が連携し明るく豊かな人生100年時代に向けた議論を重ねる場づくりなど、さまざまな取り組みをしています。<https://www.metlife.co.jp/changerougo/about/>

メットライフ生命について

メットライフ生命は日本初の外資系生命保険会社として1973年に営業を開始し、現在は世界有数の生命保険グループ会社、米国メットライフの日本法人としてお客さまに常に寄り添い、最適な保障を選ぶお手伝いをしています。多様な販売チャネルを通じて、個人・法人のお客さまに対し幅広いリスクに対応できる、革新的な商品の提供に努めています。

<https://www.metlife.co.jp>

September 13, 2021
MetLife Insurance K.K.

MetLife Japan conducts nationwide #ChangeRougo survey 2021 poll examines peer connections, retirement preparation and mindset in 2nd year of pandemic

MetLife Insurance K.K. (MetLife Japan; President, Chairman and CEO Dirk Ostijn) announced the results of its fourth annual survey of 14,100 men and women aged 20 to 60 and above from all of Japan's 47 prefectures about "rougo," or post-retirement life. The findings of the survey are summarized below.

This survey has been conducted annually since 2018. This year, it focused on the impact of the pandemic on "changes in attitude towards post-retirement," "shift in values and mindset in preparation for post-retirement," and the changes in the connections among people and society.

This survey is one of many initiatives under #ChangeRougo aimed at helping people plan for a bright and prosperous post-retirement life. MetLife Japan is committed to taking the leading role in realizing a more confident future through products and services that meet the evolving needs of our customers in the era of the 100-year life.

Nationwide Edition

1. Attitudes toward rougo

- The vast majority (83.3%) of the 14,100 respondents revealed that they are uncertain about their rougo.
- Across all age groups, the primary cause of uncertainty in relation to rougo was their prospects with regards to money, health, and dementia. Respondents in their 60s and 70s showed greatest concern about health, dementia, and the need for nursing care and money, in that order.
- 44.0% (48.7% in 2020) of respondents felt more concern about their rougo due to the pandemic.
- Respondents said they had "become more mindful of their savings," "become more mindful of their health" and "had an increased sense of the need to save money." More than 50% of people in their 20s to 30s also reported feeling an "increased need to save," followed by "an increased mindfulness of health" and the need to "invest assets."
- In the era of the 100-year life, 26.7% of all respondents said that, assuming they live to be 100 years old, they have a dream or goals that they would like to realize in the future." 64.4% of respondents said they need to "prepare financially" (64.4%) and "to be healthier" (60.0%).

2. Preparation for rougo

- Most respondents (62.3%) said they are "regularly saving" or "saving but not systematically" in preparation for their post-retirement lives. The number of respondents answering in this way has grown compared to 56.4% in 2019, and 61.4% in 2020.
- The average amount of financial assets among all respondents is ¥11.8 million. Compared to 2020, this amount has increased by ¥258,000. However, there has also been a decline in the financial assets of respondents in their 20s (down ¥649,000) and 50s (down ¥245,000).
- People of all age groups showed a lower expectation of "how much is necessary to support retirement," at ¥28.5 million on average. This is ¥1.5 million lower than the previous year, and the lowest amount since the survey was first conducted in 2018. In particular, the response from people in their 20s is more than ¥3.1 million lower than the previous year.

- 35.1% of all respondents currently have investment assets, however for the first time since the survey began in 2018, and the percentage of respondents in their 20s with investment assets was below 30%.
- In total, 58.5% (versus 56.7% in 2020) of respondents reported an intention to invest going forward, including over 70% of people in their 20s and 30s. All age groups, except for those in their 60s-70s, showed more interest in investing going forward compared to the first survey conducted in 2018 (20s: +23.9 pts; 30s: +15.1 pts; 40s: +13.5 pts; 50s: +10.4 pts).
- About 24.0% (versus 20.1% in 2020) of all respondents said the pandemic has served as a wake-up call to invest, and those in their 20s and 30s showed more than a 7-pt increase.

3. Satisfaction to daily life, and Connections among peers in relation to everyday mindset and satisfaction

- All respondents were asked to score themselves in a self-assessment about how fulfilled they feel in life. The average was 61.5 pts, which showed no major changes from the previous year (62.3 pts). Those who said they had taken action in three areas, “save financial assets and invest in preparation for post-retirement,” “stay mindful of health and exercise,” and “have a purpose in life (a hobby or social network)” tended to feel more fulfilled, and each of these had average scores higher than 65 points.
- When asked about the impact of the pandemic, 66.0% of respondents reported feeling disconnected from their friends. This was followed by changes in their relationship with family and friends. Respondents mentioned “supporting the children in their neighborhood,” “maintaining the safety of their community,” and “helping the elderly in their community.”
- In terms of perceptions of daily life, the top responses included “I have a reason to live” (40.0%), “I have someone I can consult regarding health / medical care” (39.7%), and “I value communication and connections with friends” (39.5%).

Stand-outs by Prefecture

The following prefectures had high scores:

- “Concerns about rougo” were highest in Fukushima at 89.4%, followed by 88.9% in Iwate, 88.5% in Niigata, 88.1% in Shizuoka and 88.1% in Toyama.
- “Concerns around rougo have been heightened by the pandemic” was 50.5% in Aomori, 50.3% in Miyazaki, 48.4% in Miyagi, 47.6% in Ibaraki, and 47.2% in Tokyo.
- “Already investing assets” was highest in Hyogo (44.2%), followed by 41.7% in Saitama, 41.2% in Kanagawa, 41.2% in Mie, and 40.5% in Toyama.
- “Intend to invest assets” was highest in Okinawa (67.5%), followed by 66.9% in Shiga, 64.5% in Tokyo, 64.3% in Shimane, and 64.0% in Tochigi.
- “Have a dream or goals for the future” was highest in Tokyo at 31.1%, followed by 30.6% in Shiga, 30.2% in Hyogo, 29.7% in Okinawa, and 29.6% in Kyoto

END



For Immediate Release | Public Relations | MetLife Insurance K.K.

#ChangeRougo Initiative

Under #ChangeRougo, MetLife Japan aims to ensure that people can be healthy and prosperous in their golden years, enabling anyone to aim for a bright and prosperous retirement. To help bring about a bright and productive super-aging society, MetLife Japan conducts a variety of initiatives including the #ChangeRougo survey and creating opportunities for cross-sector collaboration and dialogue in the Era of the 100-year Life.
<https://www.metlife.co.jp/changerougo/about/>

About MetLife Insurance K.K.

MetLife Japan started operations in 1973 as the first foreign life insurance company in Japan and currently operates as a Japanese corporation and an affiliate of MetLife, Inc., a leading global financial services company that aims to help people become more self-reliant and able to pursue more from life. MetLife Japan provides a broad, innovative range of products through diverse distribution channels to individual and institutional customers.
For more information, visit <https://www.metlife.co.jp>